



マクロ生態分野

大規模の生物多様性を
時空間的に
予測モデルで理解する

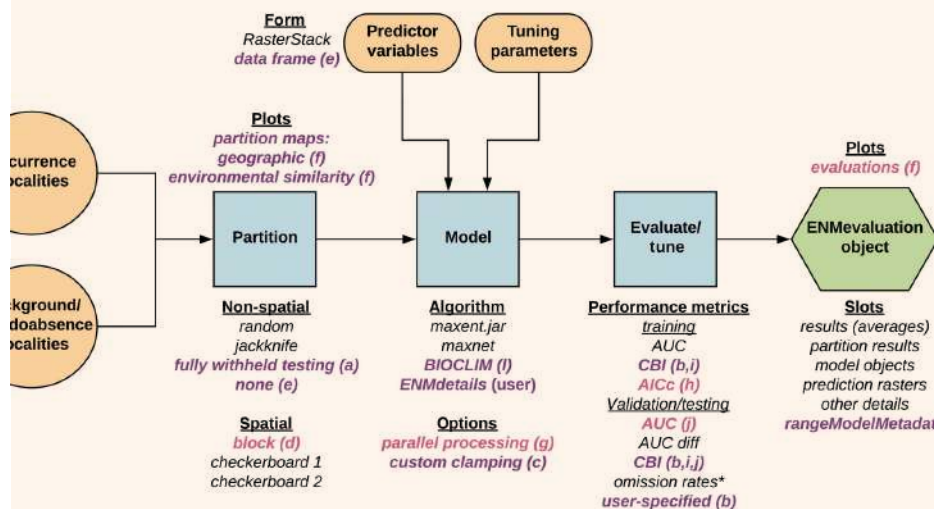
生物多様性は人間社会に様々な利益を供給してくれます。しかし、どこが高いか、どこが変動しているか、どうやって定義するかも、生物の大半にとってよく理解されていません。最近、生態情報学やデータサイエンスが促進したことで、こんな疑問を大きなスケールで答えられます。私たちは機械学習や統計モデルを用いて生物多様性とその地球変動による影響を推定し、パターンを地図化します。また、新しく創作する手法を実行する生態学解析のソフトウェアやツールを開発します。

Lab. DATA

生物多様性パターン、地球変動、種の分布・ニッチ、統計モデル、生態学のソフト開発

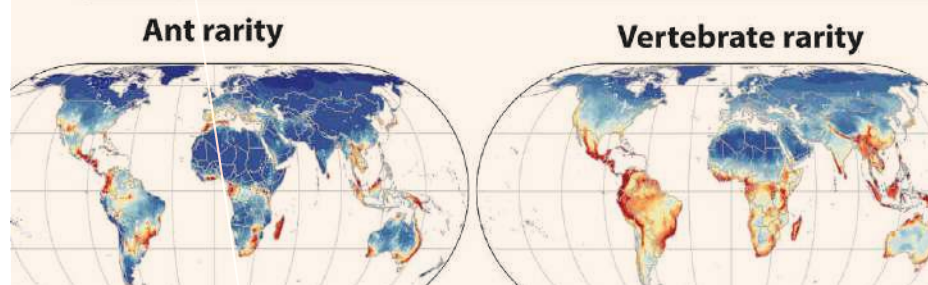
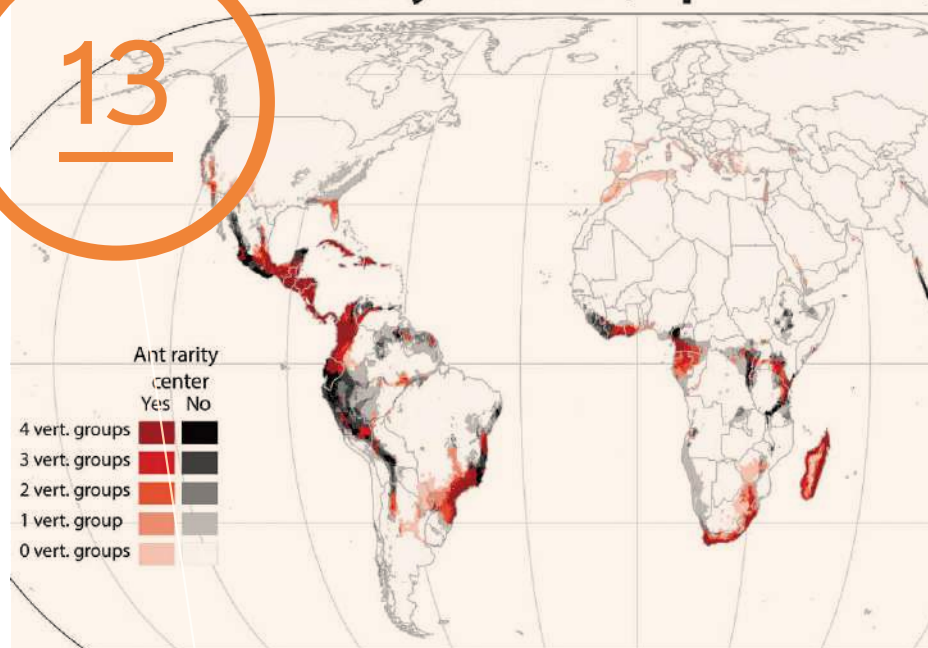
KASS Jamie M.
(キャス ジェイミ) 准教授
MIRANDA Everton
(ミランダ エベルトン) 助教

<https://www.lifesci.tohoku.ac.jp/research/fields/laboratory.html?id=45417>



13

Rarity centers (top 10% area)



研究室

Interview



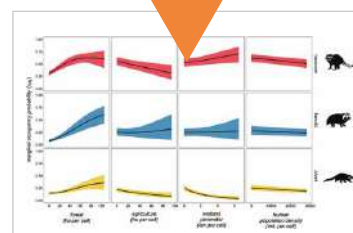
准教授

KASS Jamie M.
(キャス ジェイミ)

生き物の種がどこにいるのか、なぜその土地に生息しているのか、未来にどこに生息しているのかなどを研究する生物学者です。アメリカのニューヨークシティで生まれ育ちです。種間や生物多様性が時空間でどのように変わるか、そして人間の活動により、どのような影響を受けるかを調査してきました。



topics



神奈川県のアライグマ、タヌキ、ハクビシンの占有率予測とその土地利用や人口による影響。